

平成 26 (2014) 年度事業計画および収支予算

【長期目標・ビジョン】

日本自然保護協会が守りたいものは、暮らしをささえる豊かな自然です。
2050 年には「自然や生きものたちと共存する社会がつけられている」ことが目標です。

【中期事業目標・2020 年目標】

2010 年の生物多様性条約 COP10 で決議された愛知目標は、「生物多様性の損失を止めるために効果的かつ緊急な行動を実施する」です。このミッションを私たちも共有し、国や地域行政の政策への科学的根拠に基づく働きかけと提言を行うとともに、現場の問題解決のための活動を行います。

地域レベルでの生物多様性保全を躍進させるため、2011 年から 10 年間の重点事業として「生物多様性の道プロジェクト」を開始し、人づくり、社会づくり、産業づくりの 3 つの視点で活動しています。

これらをわかりやすく伝えるため「自然のちからで、明日をひらく」を新しいメッセージとして掲げました。



生物多様性の道プロジェクト 10 年間の活動サイクル

【2014 年度の重点事業】

●自然のちからを守るため、現場の問題解決に注力します！

(沖縄県・辺野古サンゴ礁、ラムサール条約湿地の北陸新幹線、南アルプスのリニア新幹線問題、巨大防潮堤など)

大規模な自然災害に備えるための「国土強靱化」の名のもとに、何十年も前に計画され、いったん止まっていた大型の開発事業が全国各地で再開されています。これらの事業によって、自然の回復力や自然からの恵みが損なわれることのないよう、新規や突発的な開発問題の増加を見越して、全国の会員とともに保護問題への政策提言やモニタリング調査に取り組む体制を強化します。



大浦湾のアオサンゴ



中池見湿地 IUCN 地域理事視察



東北沿岸に計画されている巨大防潮堤

●森のちからを活かす 「森の恵みプロジェクト」で地域を活性化させます！

赤谷プロジェクト、綾プロジェクト、木曾の保護林化など、先進的な森林管理のモデル事業を核として、森林という自然資源が地域の暮らしを支え活性化させる取り組みとなるような「森の恵みプロジェクト」を加速させます。赤谷では、イヌワシの暮らす森の管理と、そこから生まれる資源の地域経済化（「仮称：森のカスタネット」の販売支援）に取り組めます。



赤谷プロジェクト 10 周年フィールドセミナー/森のカスタネット



宮崎県綾町・綾の照葉大吊橋

●地域のちからを育てる「生物多様性の道プロジェクト」での人づくりを通して、各地域の自然の価値を発信します！

2010年から進めてきた「生物多様性の道プロジェクト」では、地域の暮らしと自然のかかわりの価値を見出し発信できる人材を「ふれあい調査」の講習会を通じて育成します。また、生物多様性地域戦略づくりの支援活動をさらに推進するため、東北各地や千葉県北西部、宮崎県綾町、群馬県みなかみ町、福井県中池見などにおいて、保護地域を活かした地域戦略の策定や、協議会推進会議への参加を通じた保全計画づくりを支援します。それによって、地域の主体的な保全活動を推進します。



下総アクションプラン「流山ふれあいMAP」づくり

東日本海岸調査・ふれあい調査

●ともに「明日をひらく」仲間づくり～自然観察指導員講習会・市民カレッジなど参加の機会を拡大します！

開催回数が500回を迎える自然観察指導員講習会や研修・セミナーの参加者層の拡大を図るとともに、全国の会員・指導員のネットワークを強化します。また企業との協働事業の強化や、普及啓発のために新たに開講した「NACS-J 市民カレッジ」の継続、イベント出展やメディア協力を通じた認知度向上、ボランティア登録制度の構築といった新たな取り組みを行います。これらを円滑に進めるために経営企画室を新設します。

自然のちからで、明日をひらく。
日本自然保護協会

【自然のちからを守る】
自然の回復力、
自然からの恵みを
生かす

政策提言・モニタリング
調査

- ・巨大防潮堤問題
- ・砂浜、自然海岸、
サンゴ礁の保全
- ・リニア新幹線問題
- ・中池見湿地の保全
- ・希少草原環境の保全

【森のちからを活かす】
森の恵みプロジェクト

森林の自然資源で地域の
くらしを活性化させる

- ・赤谷プロジェクト
- ・綾の照葉樹林
プロジェクト
- ・木曾の森の保護林化

【地域のちからを育てる】
生物多様性の道
プロジェクト
2010-2020

人づくり・社会づくり・
産業づくり

- ・ふれあい調査
- ・地域戦略づくり支援

【明日をひらく仲間づくり】

全国の個人・団体・法人会員・自然観察指導員のネットワーク強化
セミナー・研修・市民カレッジ・イベントなど参加プログラムの拡大

生物多様性の道プロジェクト

2014年度の目標

- ・生物多様性を活かした地域の力を高める人材の養成をスタートさせる。
- ・モデル地域での生物多様性保全の成果を広く発信し、他の地域に波及させる。

テーマ	2014目標	事業内容
1	■道プロ 人と自然のふれあいコーディネーターの人材養成企画 会員層の獲得を目指し、2年計画で新たな人材養成の枠組みを確立する。	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性を活かした地域づくりに貢献できるプログラムとして、人と自然のふれあい調査手法をもとに、コーディネーター養成を検討し、試行する。 ・人材養成WG(3回)、マーケティング調査、養成講座試行の開催。
2	■道プロ 生物多様性を活かした地域の力の育成と地域づくりの実践 NACS-Jが関わる地域をモデルに支援者を増やす。 新たな自治体との関係を獲得する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふれあい調査マップ」を活用した地域づくりのモデル（宮城県綾町、千葉県下総） ・「生物多様性地域戦略シンポジウム」の開催（関西方面） ・生物多様性地域戦略づくりへの支援開拓、戦略資料集の活用 ・ラムサール登録地（福井県敦賀市）、エコパーク登録推進地への政策支援対応
3	■生物多様性主流化支援事業 【UNDB-Jの活動支援、生物多様性の主流化を目指す】 ・UNDB-J(国連生物多様性の10年日本委員会)寄付金を活用した、生物多様性主流化事業の提案と運営 ・NACS-Jの主体的な活動として、UNDB-Jによる、生物多様性の主流化活動を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・UNDB-J幹事会・運営委員会への参画 ・UNDB-J支援事業財務委員会の設置と運営 ・UNDB-J支援事業の実施(生物多様性地域出前講座開催、生物多様性情報ポータルサイト構築等) ・UNDB-J広報支援、海外情報収集支援

経営企画室

2014年度の目標

2013年度の広報戦略会議・財務チームを集約し、より一層、機動的、戦略的に効果的な経営企画・支援事業を実行する体制づくり。

テーマ	2014目標	事業内容
1	財務管理の強化と経営の効率化 【経営効率の向上につながる財務管理】 ・財務管理体制強化と効果的な資金運用を目指す ・業務効率の改善	<ul style="list-style-type: none"> 【財務】 ・資金繰り管理、資産運用、金融機関折衝 ・会員制度の見直し、改善（修了証、パンフ作成含む） ・業務の効率化、職場環境の改善
2	実効力のある経営企画室の創設 【NACS-Jの強みを生かす協働型・参加型プログラムの開発】 ・各部の取り組みを効果的にアピールし、実効力のある広報プログラム、多セクターと協働し実行するプログラムを構築する	<ul style="list-style-type: none"> ・NACS-J共通イベントの運営（ex.エコプロ等） ・各部個別イベントの支援（チラシ作成、広報拡大、ロジ支援） ・イベントの際などに活躍できるボランティア制度構築、運用 ・NACS-J市民カレッジの企画、運営 ・各部個別セミナーの支援（チラシ作成、広報拡大、ロジ支援） ・民間保護地域評価支援等、新規支援企画の立案、実行（寄付、協賛、会員拡大企画等） ・自然保護大賞

保護交渉事業

No	テーマ	2014目標	事業内容
1	保護の具体化・前進の確実な獲得	<ul style="list-style-type: none"> ・長野・木曾ヒノキ保護林のプロジェクト化への誘導 ・北海道・大雪山／日高山脈保護林の多様性確保 ・尾瀬・至仏山保全への道すじ作り 	<ul style="list-style-type: none"> 【保護交渉事業】 ①国の施策への有効な多様性保全施策の組み込み(土地利用施策の改良誘導) ②保護地域化困難地への保護地域化(新設、拡大) ③国立公園・自然環境保全地域・保護林の一元管理方策の進展 ④国有林への多様性保全型施策の組み込み(モデルプロジェクトの普遍化)
2		20年を経た「保護林制度」への多様性と修復のしくみの組み込み	<ul style="list-style-type: none"> 【国有林保護林見直し事業(受託)】 保護林通達の内容見直し、既設保護林の点検・再設定等

保護・研究事業

2014年度の目標

- ①日本初のイヌワシのハンティング場所創出の計画を実践し、情報を発信する。
- ②市民調査と愛知目標への取り組みの全国運動をさらに盛り上げる。
- ③他団体では解決困難な重要な保護問題に取り組み、全国レベルの問題として発信し、関心層を増やす。

テーマ	2014目標	事業内容
1	<p>【重要地域での開発問題を解決する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要地域内での開発問題に対処し、全国レベルの問題として発信し、解決の筋道をつける <p>【法制度の改正へ向けたロビー活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アセス法改正にむけた情報収集と戦略作り ・種の保存法:2020年の300種指定への追加指定開始に向けた保全体制づくり ・鳥獣保護法改正:科学的な個体数管理の実行性の担保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・そうふけばら宅地開発での草地保全を求めるロビーイングとキャンペーン(現地視察ツアー等)実施。 ・中池見湿地(ラムサール登録湿地)の保全のための新幹線開発事業者への働きかけと、シンポジウム開催(10月)。 <p>・アセス法:研究会を開催し、改訂にむけた戦略を作り、ポジションペーパーを表明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・種の保存法:絶滅危惧種保全研究会への参画、ロビーイングと意見表明 ・鳥獣保護法:今年の改訂にあわせたロビーイングと意見表明
2	<p>【重要な沿岸の生態系を守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沿岸に関わる法律の適正化を図る ・埋め立て、護岸工事の改善 ・大浦湾アオサゴの協働資源管理の実現にむけた自主ルール作り 	<ul style="list-style-type: none"> ・沿岸保全管理検討ワーキンググループを開催し、沿岸問題の課題を整理する。 ・国内外で課題や成果を発信する(CBD-COP12、WPC等) ・沿岸に関わる法律改正への対応(例:海岸法部分改正) <p>【沖縄のサンゴ礁・海草藻場】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・辺野古の埋め立て問題への対応 ・大浦湾アオサゴ群集の記念物指定への働きかけと、地元団体との利用ルール作り ・サンゴ礁保全全般に対する対応(パンフ作成等) ・嘉陽海岸のセットバック方式護岸による保全効果検証のための調査、泡瀬モニタリング各1回 <p>【東日本海岸】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防潮堤問題への対応 ・気仙沼、南三陸での砂浜・後背湿地の調査と回復力評価、ふれあい調査 ・沖縄嘉陽のセットバック護岸工事の事例調査と東北との比較
3	<p>【各地の地域の保護問題の支援を行う】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち込まれ案件に対する助言・要望書提出等の活動 ・SISPA(戦略的保全地域情報システム)を通じた情報支援 ・リニア開発や再生可能エネルギー開発、国土強靱化に伴う問題の論点整理や基礎資料収集を行い、意見表明や地元団体支援に繋げる。 ・外部委員会への委員参加
4	<p>【森の力を引き出す生態系の協働管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イヌワシを象徴とした森林の生態系管理の実施準備 ・地域行政計画への反映及び地域産業への活用 ・全国への普及 	<p>【赤谷プロジェクト】(受託/自主)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三者協定による協働管理を深化するための基本構想を改定する ・日本初のイヌワシのハンティング場所創出の計画を実践し情報発信する ・カスタネット等を通じた赤谷の森を利用した地域産業づくり <p>【綾プロジェクト/照葉樹林研究】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・綾町の地域戦略策定の支援。 ・自然林復元における赤谷モデルの普及 <p>【世界遺産・小笠原諸島の適正管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・南島モニタリング調査結果を活かした地域資源の保護とエコツーリズムを通じた利用の適正化
5	<p>【市民の方で里山の生態系を調べ守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5年間の調査成果を発信し、生物多様性国家戦略の改訂(2015年)に結びつける ・NACS-Jの市民調査のノウハウを発信し、市民調査の啓発・発信力を強化する 	<p>【モニ1000里地調査(自主・受託)/里モニ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国10回の調査講習会を開催し、200サイトから10万件のデータを収集する。 ・モニ1000里地調査の5ヵ年レポートを発行し、シンポジウムを開催する。 ・里モニwebを通じた市民調査の情報発信や、研究者・博物館との共同イベントを通じて市民調査の普及啓発を図る
6	<p>【生物多様性条約の決議の普及】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知目標達成にむけて民間活動を拡大する(継続) 	<p>【IUCN-J事務局運営】</p> <p>IUCN-J(国際自然保護連合日本委員会)の事務局として国際情報の日本への普及、日本からの自然保護情報の発信を行う。</p> <p>【にじゅうまるプロジェクト】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知ターゲット達成に向けた主流化事業「にじゅうまるプロジェクト」の活動継続(登録団体の増大)
7	<p>【民間の力で守られた重要地域の価値向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「民間保護地域」の国内導入を目指し情報基盤を整備し、啓発を行う ・民間保護地域やグリーンリストなどの新施策の導入を政府に提案する 	<p>【民間保護地域の新たな制度作り(自主/受託)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・民間保護地域やWDPA・Green List登録のための基礎調査と情報収集 ・国際会議(SBSTTA18、COP12、世界公園会議)での情報収集とサイドイベント開催による成果発信 ・国際情報収集業務を通じた施策提案

教育普及事業

2014年度の目標

- 1) 自然観察指導員の継続率向上にむけて、様々な機会に参加意欲をつなげる
- 2) 講習会事業の広報を強化し、新たな参加者を獲得する
- 3) 普及事業と各部事業との連携を有機的に深め、催事参加の相乗効果をねらう

テーマ	2014年目標	事業内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代を中心に新たな参加者層を掘り起こし、多種多様な参加者を獲得する。 ・地方自治体の自然保護政策と絡めて開催し、政策を押し進める担い手としての指導員の位置づけを強固にする。 ・市民団体・連絡会との共催開催によって活動を活性化させる。 ・復興支援を目的として東北地方で講習会を開催する。 	<p>【自然観察指導員講習会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共催12回、自主開催3回、計15回 ・講師会議を1回開催 ・次年度共催先獲得のための「共催のてびき」作成や広報作業 ・受講者獲得の広報活動(関連Webサイト、メーリングリストなど)
2	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性の概念や重要性を盛り込んだテキストに改訂する 	<p>【講習会テキストの改訂版作成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2015年度講習会からの活用に向け指導員講習会テキスト改訂編集WG(3回)による編集検討と進行
3	<p>自然観察指導員養成</p> <p>～気づく身につく自然のみかた～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導員の登録継続の傾向を明らかにし、継続率向上の対処を図る。 ・指導員に届く支援を行い、満足度の向上につながる。 	<p>【指導員活動支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット作成や配布、一般紙への掲載などの指導員制度の広報 ・新指導員への連絡会入会案内やメールでの情報発信 ・再継続を呼びかけるダイレクトメールの実施 ・登録証明書・ネームプレート・腕章・保険の対応 ・メールマガジン「しどういん徒然草」(3800名登録)や公式Facebook等の情報発信 ・連絡会・地域協議会への対応 <p>・全国一斉かんさつ会の実施</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの指導員に研修の機会を提供する ・地域に根ざした指導員活動を支援する新たな研修会を作成する 	<p>【指導員研修会】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の自然を理解するプレ研修会1回(長野・自主開催) ・ネイチャーフィーリング研修会1回(関東・自主開催) ・自然しらべと水辺の外來種研修会1回(愛知・共催) <p>・新宿御苑みどりフェスタにてネイチャー・フィーリング自然観察会開催(主催)</p> <p>・セミナー「観察会の道具箱」(4回/事務所)を開催</p>
5	<p>子どもから大人、社会に向けた環境教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トンボを対象に、身近な自然の豊かさや大切さに気づく企画を工夫する。 ・NACS-Jの認知度と参加者の満足度を向上させ、支援につなげる。 	<p>【自然しらべ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ「トンボ」(案)(7～10月) ・調査マニュアルの充実とデータ活用の報告レポートの発行 ・しらべ方教室(親子向け)と研修会(指導員向け)、報告会の実施 ・企業の社会貢献活動・CSR活動・ボランティア活動の参加受け入れの定着 ・新規協賛企業の獲得 ・参加者への入会勧誘の実施
6	<ul style="list-style-type: none"> ・学校・保護者・指導員への認知度を高める。 	<p>【自然観察路コンクール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然観察路コンクールの募集、審査、決定、展示会・WS等実施
7	<ul style="list-style-type: none"> ・NACS-Jが取り組んでいる企業連携を広報し、NACS-Jの知名度を上げる。 ・企業が取り組む観察会を、継続的に実施するよう企画・提案を行う。 ・各企業の実施した観察会参加者をNACS-Jへの活動につなげる。 	<p>【企業連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業の観察会の定例化(年間のべ4回、SONY・明電舎) ・都市緑地のモニタリング手法と保全管理のコンサルティング(SONY・明電舎) ・企業CSRとしての環境教育プログラム提供(サニクリーン・荏原・共同印刷・ニコン等) <p>・ウェブサイトなどを通じた企業連携の成果公表</p>
10	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員や一般にNACS-Jの教育活動について、わかりやすく伝え、発信する。 	<p>【教育普及共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部からの講師・委員の派遣・紹介、後援依頼・原稿執筆依頼対応 ・毎日新聞環境ページ連載
11	<ul style="list-style-type: none"> ・図書検索、活用と保管が容易にできるよう、管理手法を工夫する。 	<p>【ライブラリー管理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般図書報告書ニュースター等を登録管理、閲覧サービス ・本棚の一斉整理

広報・編集事業

2014年度の目標

- ①メディアを使い分けてNGOならではの情報発信力を高める。(会報発行は現会員向けに維持。webは予算の増強、フェイスブック、スマホ等新メディア対応も。)
- ②過去の発信情報を資産化し、NACS-J未接触のユーザーを増やす。(NACS-Jウェブマガジン、ソーシャルメディア)
- ③NACS-Jのブランドイメージ、VI,CIの管理

テーマ	2014目標	事業内容
1 NGOの強みを活かす情報発信	【自然保護NGOとしての情報発信力を高める】 ・読み手のターゲットを分析し、ニーズをとらえ、即応性の高い記事を制作する ・会報とWEB・SNSというNACS-J媒体を使い分け、対象層に届く発信力を高める	【記事制作】 ・自然保護の専門性を活かしながら、一般読者の興味を引く特集を制作(会報・web共通) ・会員専用記事、WEBマガジン記事など読み手のニーズを踏まえた記事構成と編集・執筆技術の向上 ・雑誌編集の外部エキスパートと特集の切り口や展開を検討する会報ワーキンググループを開催(年6回)
	【会員満足度を向上させる会報の発行】 ・会員の行動を促す会報の定期発行	【会報発行】 ・会員向け情報誌の遅滞ない発行 ・年6回(隔月)、36頁×6号 ・7/8月号の活動レポート特集号化 ・専門性を活かした広告営業
	【NGOとしてのWEBの効果的な活用を追求する】 ・NACS-Jの活動を即応性高く発信し、自然保護関係者からの共感・支援を得る	【オフィシャルWEB】 ・オフィシャルサイト…組織情報のディスクロージャー、活動報告、参加・寄付の呼びかけ。 ・twitter、Facebook、メルマガ…サイト情報の発信・オフィシャルサイトへの誘導。 ・サーバー管理、HTML外注・システム改善マネジメント
	【WEBシステムによるマガジン発行・寄付・販売チャンネルを開拓する】 ・NACS-Jの活動への新規関係者の開拓と、小額寄付、資料販売物の購入をWEB上から行えるシステムづくり	【WEBマガジン・ECサイト運用】 ・一般向けにタッチングポイントを増やす、NACS-Jウェブマガジンの運用。 ・資料集/フィールドガイド/会報など既存資料の有償ダウンロード、販売システムの運用、WEBからのクレジットカード寄付システムの構築 ・会報等資料の電子書籍化 ・WEBサイト広告収入の開拓。 ・インターネット有料広告の出稿。
2 NACS-Jメディアを通じた企業・団体パートナー拡大	【NACS-Jメディアパートナーを開拓する】 次年度以降、安定的な出版・WEB発信事業をするための資金を獲得。	【メディアパートナー渉外】 ・生物多様性保全活動、リサイクル活動等を積極的に行う企業への営業
3 ブランドイメージを定着させる広報・PR	【NACS-Jのブランドイメージづくり】 NACS-Jのブランドイメージ、VI,CIの統合	【VI/CI】 ・2013年度に新設したキャッチコピー、ロゴの普及管理

管理事業

2014年度の目標

- ・他部署と協働し、会員・寄付等獲得の基盤づくりを進める。
- ・Webと連動した新たな収入基盤整備を広報と検討し実現化を進める。

No.	テーマ	2014目標	事業内容
1		事務局運営上の課題に対応する	【事務局運営】 ・ワーキンググループの設置 ・専門家からの助言等
2	組織としての基盤を整備する	・団体、賛助会員向けのパンフレットをリニューアルし、会員獲得のツールとする	【収入基盤整備】 個人 ・未入会者向けDMの実施 ・ビジターセンター等へのパンフレット定期発送 ・期限切れ会員への再入会呼びかけDMの実施 ・入会パンフレット増刷
		・パンフレットの配布に努め、会員獲得の基盤を固める	団体 ・パンフレットの作成
		・会報やWEBで支援者を紹介するなど、支援感の向上を目指す	賛助 ・入会パンフレットの作成 ・会概要パンフレットの作成
3		・新販売体制の整備 ・収支均衡を目指す	【刊行物管理】 ・受注管理 ・刊行物案内パンフレットの作成 ・刊行物・会報購読DMの実施